

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

現在の定時制高校は、これまでの勤労青少年の後期中等教育機関としての役割とともに、全日制高校中途退学者や不登校経験者、学習障がい等がある生徒等、さまざまな学習目的や動機をもつ生徒の学び直しの場として、また、社会人の生涯学習の場としての機能も果たしている。こうした状況を踏まえ、社会の有為な形成者としての基礎を培う全人教育並びに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活のリズムを乱さない等、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

(1) 「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。さらに、社会で必要とされる生きた学力を身につけられるようにする。

ア 授業内容や指導方法、学習教材を工夫し、生徒の基礎学力を定着させる。

イ 教育課程編成を工夫し、生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応する。

※生徒向け学校教育自己診断結果における授業に関する質問での肯定率を毎年引き上げ、令和5年度には75%以上にする。

平成30年度 69.1% 令和元年度 72.4% 令和2年度 71.3%

2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

(1) 互いを尊重しあう精神を養う。また、人権感覚を養い、自他の人権を守ることができるようにする。

ア ホームルーム活動や学校行事、部活動を通じて、自主性を高め協調性を育てる。

※生徒向け学校教育自己診断結果における行事に関する質問での肯定率を令和5年度も80%以上を維持する。

平成30年度 体育祭 77%、文化祭 77% 令和元年度 体育祭 86%、文化祭 87% 令和2年度 体育祭 84%、文化祭 84%

イ ホームルームや総合的な探究の時間を活用して人権教育を実施し、人権感覚を養う。

(2) 生徒の課題や背景を踏まえ、生徒のサインを的確に捉えて適切な対応を行い、生徒の自己実現を支援する。

ア 家庭との連絡を密にし、基本的な生活習慣を確立させる。

イ 計画的・系統的なキャリア教育を行い、卒業後の進路について考えられるようにする。

※生徒向け学校教育自己診断結果における社会のルールに関する質問での肯定率を令和5年度も85%以上を維持する。

平成30年度 80.4% 令和元年度 84.9% 令和2年度 86.2%

※生徒向け学校教育自己診断結果における進路に関する質問での肯定率を毎年引き上げ、令和5年度には85%以上にする。

平成30年度 80.6% 令和元年度 80.5% 令和2年度 82.6%

(3) 学業継続が困難な生徒に積極的働きかけ、課題解決への支援を行い、学校への定着を図る。

ア 中退防止コーディネーターを核とし、組織的に生徒を支援する。

イ S S W等との連携を図り、相談体制を充実する。

※令和5年度には、文部科学省が公表する平成30年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の9.3%以下を目標とする。

平成30年度 9.6% 令和元年度 16.3% 令和2年度 16.7%

3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進

(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な運営に努める。

ア 校内研修の実施やO J Tにより、教職員の資質を向上させる。

イ 学校運営組織の強化と効率化を図り、勤務時間を縮減する。

※教職員向け学校教育自己診断結果における校務運営に関する質問での肯定率を毎年引き上げ、令和5年度には90%以上にする。

平成30年度 95.2% 令和元年度 100% 令和2年度 85.3%

(2) 保護者や中学校、地域等に、教育目標や教育活動について情報提供を行い、地域とつながる学校づくりを推進する。

ア 学校Webページ等を活用し、幅広く積極的な情報提供を行う。

イ 保護者や中学校、地域等との相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。

※保護者向け学校教育自己診断結果における情報提供に関する質問での肯定率を令和5年度も90%以上を維持する。

平成30年度 87.0% 令和元年度 85.2% 令和2年度 92.6%

※保護者向け学校教育自己診断結果における「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率を令和5年度も80%以上を維持する。

平成30年度 82.6% 令和元年度 70.4% 令和2年度 82.1%

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】 ・「学校に行くのが楽しい」の肯定率は、学年が上がるにつれて低下している。コロナ禍により例年と異なることが多いことが原因の一つと考えられる。生徒たちにとって、「学校が楽しい」と感じる要因は何なのかを考える必要がある。</p>	<p>第1回 令和3年7月1日(木) 18:00~19:00 ○今年度の重点的な取組みについて協議 ・目標達成のための具体的な方法と照らし、効果検証が必要である。 ・コグトレのような具体的な取組みがどの部分に落とし込まれているのかをはっきりさせるとわかりやすくなる。</p>

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p>【授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすく楽しい」の肯定率は71.8%だが、裏を返せば、3割近くの生徒について考える必要がある。授業の方法や生徒の理解度に応じた内容などを考えなければならない。 ・「先生に質問しやすい」の肯定率が73.1%であったが、積極的に質問ができない生徒もいる。質問しやすい環境作りが必要と考えられる。 <p>【教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任以外への相談に関する生徒および教員の肯定率が7割弱となっており、他の肯定率に比べて低い。担任が生徒の相談相手として確立していると言えるが、担任以外にも相談できる環境作りをしていきたい。 <p>【部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動は活発だと思う」の肯定率が69.2%、教員の「学校として、部活動の活性化について工夫している」の肯定率が46.7%と低かった。生徒数の減少やコロナ禍の影響があるが、学校として部活動加入率を高くする取組みについて考える必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目で評価が低かった。特に、「校長のリーダーシップ」や「学校運営に教職員の意見が反映されている」、「教職員が意欲的に取組める環境にある」については、7割の教職員が否定的な評価であった。様々な課題が解決できていないことが評価に表れたものと考えられる。また、多くの教員が、生徒指導について組織的な体制作りが課題であると考えている。来年度は、これらの課題を解決したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事などへ生徒たちにいかに参加させるかが大事。どうすれば学校が楽しくなるか、生徒に考えさせて欲しい。 ・「授業はわかりやすいか」が評価指標にあるが、高校の授業はわかりにくいものである。 ・今年度の1年生は現段階における出席率が高いということだが、学校の取り組みの中で何がよい影響を与えているのか分析してはどうか。 <p>第2回 令和3年12月9日(木) 18:00~19:00</p> <p>○今年度の取組みについて協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自尊心が下がっている子どもたちが、楽しそうに取り組めること自体がよい体験になる。 ・認知機能トレーニングは、障がいを理解するひとつのツールとして考えるとよい。 ・支援に関する取組みについては、2~3年かけて期待して見守りたい。 ・学校運営協議会で、支援について協議したことは有意義であった。 <p>第3回 令和4年2月10日(木) 18:00~19:00</p> <p>○今年度の取組みについての協議と次年度の目標について承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労率が低下しているが、昼の時間を就労でなくても様々な形で有意義な時間の過ごし方をしてほしい。 ・中退がすべて悪い訳ではない。次に繋がる前向きな選択は良い形である。 ・中退するには様々な事情があると思うが、最後まで頑張ってもらいたい思いも強い。 ・担任以外で相談できる先生がいることはとても大事。また、困ったとき助け合える友人作りもしてほしい。 ・学校教育自己診断(保護者用)の回収率を50%以上にしてほしい思いがある。 ・生徒が将来の進路や生き方について考える機会はとても大事。さらに生徒の意識を伸ばしてほしい。 ・R4年度学校経営計画について、あらゆる場面において“PDCAサイクル”は必要なことである。是非、実行してほしい。 ・働き方改革の実現にむけて、学校全体の総合力を高めてほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実	<p>(1)「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。</p> <p>ア 生徒の基礎学力の定着</p> <p>イ 生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・オンライン授業に向けて教材等の研究を行い、プロジェクターやタブレット端末等、ICTを活用した授業を実施する。</p> <p>・相互授業見学、公開研究授業、研修等を通じて、授業力の向上を図る。</p> <p>イ・生徒の現状を把握し、希望する進路が達成できる教育課程の構築を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果におけるICT活用に関する質問での肯定率90%以上を維持する。[93.1%]</p> <p>・授業見学週間を2回実施する。[1回]</p> <p>・授業アンケートにおける「授業に満足している」3.53Pを維持する。[3.53P]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断結果における授業に関する質問での肯定率73%を維持する。[73.0%]</p> <p>イ・観点別評価について、教科・学校全体で協議できたか。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断におけるICTの活用への肯定率は94.7%で目標を達成。(○)</p> <p>・授業見学週間を6月、10月に実施。(○)</p> <p>・2回の授業アンケートでの満足度は、3.55Pであった。今後も授業改善に取り組んでいく。(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における授業の肯定率は72.5%だった。次年度は1人1台端末の活用に取り組み、肯定率の向上を図る。(△)</p> <p>イ・カリキュラム委員会を中心に協議。前期から観点別評価の試行を実施した。将来構想PTが中心となって観点別評価の学習会を実施した。(○)</p>

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援</p>	<p>(1) 互いを尊重しあう精神を養う。 ア 学校行事等を通じて、自主性を高め、協調性を育てる。</p>	<p>(1) ア・部活動の充実や支援とともに、部活動体験を充実させ、部活動参加を促進する。 ・学校行事に生徒の意見を反映させ、生徒の積極的な参加を促す。</p>	<p>ア・部活動参加率 40%以上を維持する。[40%] ・生徒向け学校教育自己診断結果における行事に関する質問での肯定率 85%以上。[体育祭 84%、文化祭 84%] ・生徒向け学校教育自己診断結果における人権に関する質問での肯定率 86%以上を維持する。[86%]</p>	<p>(1) ア・新型コロナのため、体験入部が 10 月実施となったが、部活動参加率は 49%だった。(○) ・生徒向け学校教育自己診断の行事への肯定率は、体育祭 86%、文化祭 90%。(○)</p>
	<p>イ 人権感覚を養う</p>	<p>・計画的に人権HRを実施し、互いを尊重し合う精神を養う。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断結果における人権に関する質問での肯定率 86%以上を維持する。[86%]</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する肯定率は 94%。(◎)</p>
	<p>(2) 生徒の自己実現の支援 ア 基本的な生活習慣を確立する。</p>	<p>(2) ア・家庭との連絡を密にし、学校を休まないような生活習慣を確立する。 ・授業を集中して受ける姿勢をつくる。</p>	<p>(2) ア・出席率を 78%以上に向上させる。[77.5%] ・授業アンケートにおける「授業に集中して取り組んでいる」3.60P 以上。[3.57P]</p>	<p>(2) ア・出席率は 84%と向上した。コロナ禍の中よく頑張っている。(○) ・2 回実施した授業アンケートの平均は、3.59P であった。今後も継続して指導していく。(△)</p>
	<p>イ 卒業後の進路を考えられるようにする。</p>	<p>イ・計画的・系統的なキャリア教育を行う。 ・総合的な探求の時間やアルバイトの推奨等を通じて、就労・社会参加意識を醸成する。</p>	<p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路に関する質問での肯定率 82%以上を維持する。[82.6%] ・進路未決定率を 12%以下にする。[15.4%] ・在校生の就労を 65%以上にする。[55.4%]</p>	<p>イ・生徒向け学校教育自己診断の進路に関する肯定率は 89.7%であった。計画的に取り組めた。(◎) ・進路未決定率は 14.3%であった。コロナ禍のため、学校斡旋就職指導が困難だった。(△) ・コロナ禍のため、アルバイトに就くことができない影響もあり 43%だった。(△)</p>
<p>(3) 学校への定着を図る。 ア 組織的に生徒を支援する。</p>	<p>(3) ア・特別支援教育コーディネーターと中退防止コーディネーターを核とし、組織的に生徒を支援する。 ・中退率を低減させる。</p>	<p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における満足度に関する質問での肯定率 85%を維持する。[88.4%] ・中退率 13%未満にする。[16.7%]</p>	<p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断における満足度に関する肯定率は 85.9%であった。(○) ・中退率は 13.9%である。(△)</p>	
<p>イ S S W 等との連携を図り、相談体制を充実する。</p>	<p>イ・S C、S S W 等を活用した相談体制を推進する。</p>	<p>イ・S S W が参加するケース会議を年間 25 回以上実施する。[30 回] ・S S W や S C が参加する支援会議を年間 10 回実施する。[10 回]</p>	<p>イ・S S W 参加のケース会議を 25 回実施した。(○) ・支援委員会を 10 回実施した。(○)</p>	

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進</p>	<p>(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な運営に努める。</p> <p>ア 教職員の資質を向上させる。</p> <p>イ 学校運営組織の強化と効率化。</p> <p>(2) 地域とつながる学校づくりを推進する。</p> <p>ア 積極的な情報提供を行う。</p> <p>イ 相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員の人権意識や組織力の向上のための研修を実施する。</p> <p>イ・教職員一人ひとりの意識を改革し「働き方改革」を学校全体で推進させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P D C A サイクルを活用し、校務運営を活性化する。 ・全日制との連携・協力体制を充実させる。 <p>(2)</p> <p>ア・We b ページによる情報発信の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会等の内容を精査し、学校への理解が深まるように充実させる。 <p>イ・中学校訪問や中高連絡会を通じて、出身中学校等との連携を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断や行事でのアンケートなどで保護者の思いや期待を収集し、学校との協力体制の推進に活用する。 	<p>(1)</p> <p>ア・研修を2回以上実施する。[4回実施]</p> <p>イ・教職員の年次休暇の計画的な取得を推進し、平均年休消化率80%以上。[78.7%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向け学校教育自己診断結果における校務運営に関する質問での肯定率90%以上[85.3%] ・定期的な全定合同連絡会を4回開催する。[4回実施] <p>(2)</p> <p>ア・We b ページで部活動や学校行事等を紹介する。100回以上更新する。[137回更新]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会を年3回実施する。[3回実施] <p>イ・中学校訪問数30校以上。[37校訪問]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高連絡会を年4日実施する。[2日実施] ・保護者向け学校教育自己診断結果における「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率80%以上。[82.1%] ・保護者向け学校教育自己診断アンケートの回収率を30%以上にする。[24.1%] 	<p>(1)</p> <p>ア・同和教育、在日外国人問題、組織力に関する研修を行った。(○)</p> <p>イ・平均年休消化率は75.4%だった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向け学校教育自己診断における校務運営に関する肯定率は80.0%だった。次年度は、校務運営について協議する機会を増やし活性化する。(△) ・全定連絡会を4回実施した。必要に応じて連絡調整を行った。(○) <p>(2)</p> <p>ア・准校長通信88回など、We b ページを115回更新し、生徒の様子や学校行事などの情報発信に努めた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会を11月、12月、1月に実施した。(○) <p>イ・12月～1月にかけて42校訪問する予定であったが、感染状況の悪化により7校訪問したところで中断したので評価できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、4月は中止し10月に2回実施。23校の参加があり、有意義な情報交換ができた。(○) ・「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」75.9%と昨年に比べて低くなった。(△) ・保護者向け学校教育自己診断の回収率は30.9%であった。(○)
---	---	---	---	---